

埼玉連だより

第

55号

平成 27 年 5 月 31 日

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼 250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

埼玉県弓道連盟

会長就任の挨拶

会長 本橋民夫

去る4月25日、平成27年度埼玉県弓道連盟評議員会において役員改選があり、岡田会長のご退任に伴い次期会長にと推薦がありました。

2年前、岡田先生が会長職を引き受けて下さった時、当然3期、4期と続けて下さるものと思っていましたが、今回ご都合により1期でご退任されるということで大変驚きました。私自身、能力的にも、人格的にも拙く、とてもお引き受けできる人間ではありません。しかし、これまで埼玉県で大変お世話になり諸先輩のご指導のお陰でここまで来ることが出来ました。そのお礼奉公という気持ちは十分ありますが、このような役職になるとは思ってもみませんでした。

いずれにしても、お受けした以上、副会長はじめ役員の皆様、会員の皆様のご協力をいただき、前向きに全力で取り組んで行きたいと思えます。幸いにも、岡田前会長は、今期は監事として残り、各種事業の監査を行うという申し出をいただき、誠に心強い限りです。一方、坂本副会長からはご多忙ということで退任の申し出がありました。また内河副会長が定年制によりご退任されます。知識・経験豊富な御二方のご退任は非常に痛手です。今期の役員のうち、2名の副会長は2期目となりますが、他の2名の副会長は初めての職となります。また、理事長、総務委員長、審査委員長も今期が1期目で、経験の浅い新しい顔ぶれで埼玉県弓道連盟を運営していくこととなります。何かと不慣れで、会員の皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかとは思いますが、何卒、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

会務運営に当たっては、小澤先生、岡田先生のご意思を受け継いでしっかりやって行きたいと思えます。また、加えて二つのことを考えております。

まず一つ目は、講習会についてです。県連の講習会が開催されると、毎回七十歳代、八十歳代の方々が多数受講されます。何歳になっても更なる向上を目指して、日常の稽古に精進し、講

習会でそれらを確認するという姿勢にはただただ頭が下がる思いです。一方、講習会を受講されない方々も多数います。しかし、それらの方々の中で地元の道場



では後輩の指導をしている方は多数いると思います。県内審査の状況を見ますと、矢番え動作、入退場の動作等講習会で強調しているにもかかわらず、未だ徹底されていない面が多々あります。各道場で指導する立場にある人は是非とも県連講習会を積極的に受講して、正しい知識、正しい動作を後輩の皆様にご伝えていただきたいものです。

二つ目は、矢羽の問題です。現在、全日本弓道連盟では、密猟した矢羽の取引が問題になっており、矢羽の使用に関する準則が制定されました。密猟した矢羽を購入すること、使用するという行為は、弓道人として、武道を学ぶ者としてあってはならないことだと思います。何のために弓道をやっているのか、弓道をやって何を学んだのかが問われると思います。弓道、武道は技術を学び、修練することを通じて、人としての正しい生き方を学ぶもの、人としてあるべき姿を学ぶものだと思います。我々の学ぶ弓道も射技のみに拘泥することなく、倫理性を追求した弓道を学んでいきたいものです。

最後に、このような重責に大変不安を感じていますが、私自身これからも心・技とも修練を怠ることなく、微力ではありますが、埼玉県弓道連盟の発展のために尽力したいと思います。皆様のお力添えを切にお願い申し上げます、新任のご挨拶とさせていただきます。



専門委員会だより

総務委員会

弓道部卒業生の入会について

前総務委員長 内河 輝臣

総務委員会では、平成23年より2年間にわたり会員増加策について検討してきたが、弓道教室を開いて初心者ゼロから教えるよりも、経験者を呼び戻す方策を考える方がはるかに有効であるという意見があった。

特に県内の高校には、約3,000名の弓道部員がおり、毎年1,000名近い生徒が卒業しているにも拘わらず、卒業後、弓を続ける生徒が非常に少ないという実態がある。

平成25年の総務委員会では、具体的に高校生を呼び戻す方策の一つとして、弓道部卒業生に埼玉連会長名で、「卒業おめでとう」のメッセージと共に、埼玉連への加入を勧める文章を配布したらどうかとの提案が出された。

そこで初めての試みとして、下記のような「埼玉県弓道連盟入会のお誘い」を作成して高体連のホームページに掲載し、各高校の顧問の先生を通して本年3月の卒業生に配布しました。

これを見た弓道部卒業生から各弓道連盟に、入会の申し出や問合せがありましたら、ぜひ暖かく、親切に対応いただきたいと思ひます。

ここで、一般の方に特にお願いしたいのは、



高校の弓道と一般の弓とは全く別のものとお考えいただき、両者の間には大きなギャップがあることを認識いただきたいということです。

高校3年生になると卒業後の進路に備えるために引退が早く、正味の活動期間は2年弱くらいなので、それまでに一定の成果を挙げるためには、兎に角、的中を最優先にした練習にならざるを得ない部活動の実態があります。

したがって、卒業して一般の道場に入ったとたんに、体配や技術的なことを厳しく言われ、直されると、それまで自分たちがやってきたことを全て否定されることになり、急速に意欲を失わせることになりかねません。

どうか、暖かく長い目でじっくりご指導いただき、少しずつ一般の弓に馴染んで行けるように接していただければ幸いです。

終わりに、このたび定年により、副会長（兼総務委員長）を退任いたします。これまでの皆様のご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

平成27年3月1日

弓道部卒業生の皆様へ

埼玉県弓道連盟
会長 岡田義助

埼玉県弓道連盟入会のお誘い

ご卒業まことにおめでとうございます。

3年間の高校生活の思い出を胸に、将来の夢と希望に向かって、自らの足で自らの人生を力強く切り拓いていかれることを切に祈りますとともに、この度の新たな門出を心よりお慶び申し上げます。

さて、振り返って、弓道の部活動はいかがでしたでしょうか。

3年間やり遂げたという充実感、大会における入賞の喜び、逆に思うような結果が出ずに流した悔し涙、苦しく辛かった練習、思いで深い合宿の一コマコマ、かけがえのない生涯の友を得ることができた、……などなど。

皆さんは3年間の部活動を通して、弓道の良さ、楽しさと苦しさ、あるいはその難しさと奥の深さなど、弓道とはどのようなものか、また、その魅力を身を以て体験し、感じ取って来られたことと思ひます。

そして何よりも、丹精込めて磨き上げてきた弓道の技をこのまま失ってしまうのは、いかにももったいない気がいたします。

進路はそれぞれと思ひますが、卒業後も何らかの形で是非弓を続けてほしいというのが、長く弓に携わってきた身一人としての切なる願ひでございます。

その方法の一つとして、埼玉県弓道連盟への入会をご案内させていただきます。

具体的には、地元の各弓道連盟にご入会いただき、その連盟の一般会員として弓を引いていただくことが、すなわち埼玉県弓道連盟への入会となります。

現在は、県内のほとんどの市または町に弓道場があり、そこを拠点に地元の弓道連盟が活動しておりますので、連盟の会長さんに連絡を取り、入会を含めてその後の弓の引き方など、まず気軽に相談なさってみることをお勧めいたします。

会長さんの連絡先が分からない場合は、顧問の先生にお聞きいただくか、または、弓道場に直接お問い合わせいただければ大抵教えてもらえると思ひます。県内の弓道場一覧表を添付しましたのでご利用下さい。

また、埼玉県弓道連盟はホームページを開設しております。ホームページには埼玉県弓道連盟の活動に関する最新のニュースをはじめ、組織の概要、審査会や大会の予定と結果、県内の弓道場、過去の大会の記録、支部の活動など、いろいろ参考になる内容が掲載されておりますので、ぜひご覧になってみて下さい。

皆様の一人でも多くの方の入会を心よりお待ちしております。

指導委員会

指導委員 16 年間を振り返り

前指導委員長 坂本 武彦

平成 11 年 4 月に指導委員を拝命し、平成 13 年からは県の理事に、平成 15 年から指導副委員長、平成 17 年からは常任理事、平成 23 年からは副会長兼指導委員長と、16 年間に渡り指導委員会のみで活動させて頂きました。

その間に、全日本弓道連盟及び関東地域連合会主催の講習会に多数参加させて頂き、沢山の事を学びました。その経験を生かし、指導副委員長時代には、埼玉県で開催された上記主催の講習会の開催運営を何度も担当し、運営方法について勉強させて頂きました。

県内の講習関係については、会長並びに指導委員長の指導のもと、会員の皆様に平等に範士の先生からの指導を受けられるよう大宮公園での錬成会、県立武道館での月例会の実施等を図って参りました。

また、新たな企画、取組みとしては、弓具店の専門家からの弓具の講習会、専任講師による弓道講座の開講の実施等を行いました。更に、指導員資格取得のための講習会の運営、体育協会主催のプラチナキッズへの取組み、武道館主催事業（地域社会武道指導者研修会）への参加等多方面への活動を広げてまいりました。

これらの実施に当たっては、会長、委員長先生を始め、指導委員先生方のご支援、そして会員の皆様の多大なる協力を頂き、無事業務を遂行させて頂き大変感謝申し上げます。

さて、現在武道関係者の求めていることは、日本の将来を担う若者や子供たちへの教育の一環として武道を広めて国を守って行こうと考えていることです。

これを埼玉県弓道連盟として考えてみると指導の方向性に差が生じていることが伺われます。われわれ弓道連盟は、会員の皆様が審査で昇段したり、大会で活躍してもらえようような指導を中心に講習会を行ってきていますが、今後は指導内容に、この武道としての弓道を正しく伝えることの重要性も加味した指導計画、方法を検討するべきではないかと思えます。しかし、簡単なことではありません。

正しい弓道を伝えてゆくためには会員の皆様の御理解と御協力と御支援が肝心です。是非弓道が永く残せるようにするためにも指導委員会に対する御協力を今後も宜しくお願い申し上げます。

競技委員会

平成 26 年度を振り返って

委員長 岡芹 喜行

会員皆様のご協力を頂き円滑な運行ができました事に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年度当初から弓道競技規則が改定され大会運行に支障が出るのでは無いかと危ぶまれていましたが競技委員会として早いうちから改正内容に対応していたため差ほどの影響もなく運行ができたとみております。

委員長として心がけましたところは、それぞれの任務について、競技役員の自主性をもたせ運行を行って頂きました。

特に招集・進行係につきましましては、係員の考えになるべく任せるように致し大会終了後に競技委員が集合し、支障があれば反省をする方法を取り入れました。

この 1 年間である程度の運行の流れができたと思います。

平成 27 年度中には関東ブロックが埼玉県で開催されますので、今後の課題として近的・遠的の順位の決定方法の確立です。個人競技では継続的中数の多い方を上位とする。団体競技では一本競射（各自 1 射）を行い、総的中数の多い方を上位とする。この個人・団体の競射を行う場合に矢を一手か四つ矢を持って入場させるのか？他県と現在は競射方法が異なっていますので競技委員会の研修会を開催して他の問題点を含め検討を行います。

話は変わりますが、地方の大会へ参加させて頂いていますが大会運行が競技規則に沿っていない連盟が見受けられますので、支部の競技委員の指導を受け競技が、安全で公正公平かつ円滑に運営されることをお願いしたい。

平成 27 年度に入り役員の改選が行われ競技委員も多少の人事が行われます。その時には、役員又は、選手として規則を熟知し遵守して活躍をお願いしたい。



国体選手強化委員会

2015 和歌山国体にむけて

委員長 瀧上 三郎

和歌山国体に向け、昨年10月より各支部から成年男女計65名参加により第1回の育成会を行いました。特別講師として岡田義助会長はじめ名誉会長の松沢岳先生ならびに小澤通春先生、顧問の小宮栄子先生方のご指導により全五回を終了。

そして3月14日には第1回国体候補選手予選会を行い、全体的に昨年よりレベルアップしたように思われます。スケジュールでは5月16日に一次選考を行い、錬成会のメンバーを決定。その後2回の錬成会を経て、6月14日に正選手3名、補欠1名を選出予定。8月23日埼玉県立武道館弓道場にて開催される関東ブロック大会において、まず予選突破に集中します。さらに攻撃できるチームを強化委員のサポートのもと、仕上げ第70回「紀の国 和歌山国体」へ送り出したいと思えます。

本年度から国体の競技規定が次のように変更になります。(1チーム・選手3名 監督1名)

成年男子チームのブロック予選通過数が8チーム中5チームから4チームに1チーム減。競技時間が近似的7分から7分30秒に遠的が6分から6分30秒と全弓連競技規則通りとなる。また、前回まで成年チームは選手兼監督だったものが少年と同じように専任監督制に戻る。

27-28年度 国体選手強化委員成年メンバー
総監督 瀧上 三郎
男子監督 廣松 弘 女子監督 鹿野 信恵
スタッフ 出下晃一郎、古泉利昭、池谷茂、松本信一郎、山本雅博、吉澤和代、村上節子、中嶋由美子



国体選手育成会

審査委員会

地方審査要領の一部変更について

副委員長 齋藤 安次

平成26年度は、浅野有三委員長の下、多くの関係者のご協力を得てすべての審査会を無事に終わることができましたこと、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

私は本委員会2年目になりますが26年度を振り返ってみますと、7年に一度といわれる中央審査を側面からお手伝いでき貴重な経験をさせて頂きました。

さて、審査委員会は一般の方に馴染みが薄いと思われるので、目的や方針等をご紹介します。

委員会の役割は、個人から審査申込書が提出されたところから始まり審査実施に至るまでの事務作業と審査終了後の結果報告(HP掲載・認許証書の配布)等のまとめを行っています。

方針は、審査運営がスムーズに運ぶよう事前準備をし、受審者や審査員の先生方に気持ちよくお帰り頂くことを念頭において、役割を全うするよう心がけています。

さて、本題に入りますが、新年度から地方審査要領が一部変更されましたのでご紹介いたします。

① 審査対象は登録した会員区分(一般・高校)通りとします。例えば一般会員区分の高校生は高校生対象の審査は受審できません。また、高体連所属の高校生は一般対象の審査は受審できませんのでご注意ください。

② 「地連登録料」として審査会当日に納入する名称が「地連事務費」と名称が改められました。

③ 地方・連合審査の学科問題が公表されることになりました。次ページをご参照ください。最後に審査申込みに際してお願いです。

審査申込書の記入間違いが多い項目は、現段位の取得年月日やID番号です。これらによって立順が決まるので重要です。また、氏名は会員登録した時の書体で且つ楷書で丁寧に書いて下さい。全弓連登録料については消費税分が付加されていますので釣銭の無いよう予め準備をお願いします。

今後とも審査業務に関して関係各位のご協力をお願い申し上げます。

地方審査会・連合審査会 学科試験問題

審査会の公正、公平性を担保するため、平成27年度から地方審査会ならびに連合審査会の学科試験問題を公表する。

各審査会とも出題はA群、B群からそれぞれ1問、計2問を出題する。

なお、問題は数年経過後に見直し、改訂するものとする。

種別	A群(射法・射技・体配・基本体等)	B群(理念・概念・修練姿勢等)
無指定 初段	<ol style="list-style-type: none"> 射法八節を順に列記し、簡単に説明しなさい。 「基本の姿勢(4つ)」と「基本の動作(8つ)」を列記しなさい。 「執弓の姿勢」について説明しなさい。 射法八節の「足踏み」について述べなさい。 	<ol style="list-style-type: none"> 弓道を始めた動機(きっかけ)について述べなさい。 弓道を通じてどのようなことを学びたいと思いますか。 弓道を学んで良かったと思うことを述べなさい。 あなたは危険防止のためにどんなことに注意していますか。
二段	<ol style="list-style-type: none"> 基本の姿勢(4つ)列記し、簡単に説明しなさい。 基本の動作(8つ)を列記し、簡単に説明しなさい。 「胴造り」の重要性について述べなさい。 射法八節を列記し、「残心(身)」が大切なことについて述べなさい。 あなたは「弓構え」でどんなことに留意していますか。 	<ol style="list-style-type: none"> 弓道を学んで感じていることを述べなさい。 あなたの弓道修練の目標について述べなさい。 弓道が他のスポーツと異なる点について述べなさい。 あなたが審査を受ける目的について述べなさい。 危険防止について心掛けていることを述べなさい。
三段	<ol style="list-style-type: none"> 基本動作の留意点について述べなさい。 大三の取り方の留意点について述べなさい。 巻藁練習の効用について述べなさい。 「三重十文字」の重要性について述べなさい。 「矢の処理の三原則」を述べ、『弦切れ』の処理方法を説明しなさい。 	<ol style="list-style-type: none"> あなたが日々の修練で心がけていることを述べなさい。 弓道修練を実生活にどのように応用しているか述べなさい。 「審査を受ける心構え」について述べなさい。 日常の修練で苦勞していることを述べなさい。 日常修練で中間の安全の為にどんなことを心掛けていますか。
四段	<ol style="list-style-type: none"> 大三の構えが射に及ぼす影響について述べなさい。 「五重十文字」について述べなさい。 「基本動作の基本(8つ)」を列記し、簡単に説明しなさい。 「射法・射技の基本(5つ)」を列記し、簡単に説明しなさい。 「詰合い・伸合い」について述べなさい。 	<ol style="list-style-type: none"> 射を行う心構えと態度について述べなさい。 「審査を受ける心構えと意義」について述べなさい。 「礼記射義」の教えの要点について述べなさい。 「射法訓」の教えの要点について述べなさい。 後輩を指導する時に心掛けるべき危険防止について述べなさい。
五段	<ol style="list-style-type: none"> 基本体の重要性について述べなさい。 動作と呼吸(息合い)の供応について述べなさい。 「会」における「詰合い・伸合い」について述べなさい。 「基本体型」について説明しなさい。 「引く矢束引かぬ矢束にただ矢束」について説明しなさい。 「射法・射技の基本」について説明しなさい。 「五胴」について述べなさい。 	<ol style="list-style-type: none"> 弓道の最高目標について述べなさい。 「平常心」について述べなさい。 「真、善、美」について述べなさい。 弓道修練の眼目について述べなさい。 「射即人生」という言葉をあなたの日常生活と関連付けて述べなさい。 介添えの心構えについて述べなさい。 初心者への指導で危険防止について心掛けるべきことを述べなさい。

女子部

女子部だより

部長 鷹巣 光子

女子部主催の研修会が1月31日参、四段を対象に県立武道館で行われました。真冬の厳しい寒さにも負けず95名の申込みで近的射場、遠的射場の4射場、講師は女子部の役員皆さんの奮闘により襷さばき、入退場の仕方、持ち的射礼の稽古、射技指導等盛り沢山の研修会を行いました。各道場では、なかなか5人揃ってお稽古する機会が少なく、お互いの息合、間合いを同じ流れで行う難しさを感じたのではないのでしょうか？又体の崩れがないか？縦横の十文字、三重十文字、五重十文字が出来ているか？日常生活においても年を重ねるごとに自然と体の崩れが生じて来るので、体配に於いても修正する事を心掛け縦線の効いた弓を引く事が大切ですね。

2月に入り式段以下の研修会を行ないました。日常生活に於いて私達女性が和服を着る機会が少なくなりました今日少しでも和服に慣れる事と思い和服着用で行いました。審査を控えていましたので道場の掌握、入退場の仕方、体配などに気を配り皆さん合格できます事を祈りながら指導に当たりました。襷はかけ方の手順を覚えていただければと思います。後は順々に少しずつ躰を付け弓矢を組んで襷をかける事が出来る用に稽古を重ねてください。

2月18日には錬六の方を対象に小宮先生による特別講習会を行ないました。襷さばき、体配、一つの射礼等同じレベルの人達で先生の微に入り細に入ったご指導を仰ぎ、指導者としての心構え、技等を体得し又一つ前進を期待しています。

県の役員改選に伴い女子部においても新年度役員の交代が行われました。西部支部の嶺美智子委員、中部支部の小出佳江委員に代わりまして松寄恭子委員、伊藤晶子委員をお願いいたしましたので新旧共々皆さんよろしく願いいたします。前役員の方お疲れ様でした。

今年度の東日本女子大会が平成27年5月31日栃木県宇都宮弓道場で行われます。埼玉県から3段以上87名、称号者82名と大勢の方の参加申し込みを受け有難うございました。日頃のお稽古の成果を期待しております。皆さん頑張りましょう。

高体連

新年度に期して

委員長 山田 紀之

日頃より弓道連盟の先生方には、高体連弓道専門部の活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

4月13日(月)大宮公園弓道場で高体連弓道専門部顧問総会を開催いたしました。

顧問総会の冒頭、連盟より岡田義助先生においでいただき、お話をいただきました。

特に第1回高校審査について、審査規程の改定、学科問題の統一について、体配は、日頃の練習の中で、もう少し稽古して欲しいというお話がありました。

また、学校に連盟からボランティアで指導に行っている指導者との連絡について、特に顧問の転勤等の時に、丁寧に引き継ぎをお願いしたいというご指導もいただきました。

高校の顧問が、直接連盟の先生からお話を聞く機会はありません。今後、そうした機会を少しずつ増やして行ければと思います。

本年度は役員改選の年にあたり、平野先生の後任の副委員長として、丸山先生をお願いすることになりました。その他の役員は留任となりました。平成27年度、28年度の2年間の任期となります。どうぞよろしく願いいたします。

昨年度の大きな成果として、第69回長崎国体少年男子の部で、遠的3位に入賞したことが挙げられます。専門部の最重要課題として取り組んできた国体強化に結果が出たことは、大変嬉しいことでした。本年度はブロック予選が地元開催ということで、更に強化に力を入れて行きたいと考えています。

本年度の大きな行事として、第59回関東高等学校弓道大会埼玉大会があります。8年に一度の主管ということで、準備を進めているところです。弓道連盟の先生方には、大変なご理解を賜り、これまで以上の補助金をいただきましたことに感謝申し上げます。

大きな大会の運営は大変なことですが、それをきっかけとして、顧問の連携、連帯を深め、交流や親睦を図るチャンスでもあります。苦労や困難を知恵を出し合って乗り越えていく中で、専門部としてのチーム力が更に上がることを期待しながら準備をしております。

また、せっかくの地元開催ですので、地の利を活かし、埼玉勢選手の活躍を期待したいところです。夏に奈良県吉野町で行われるインターハイが、今年は60回の節目の大会となります。記念大会ということで、関東枠として1校増枠で出場できることが決まっています。埼玉関東大会の男女優勝校が、その枠を得ることとなり、各都県予選に先駆けての、インターハイ出場権をかけた大会にもなっています。

更に、今後平成29年3月には、第16回東日本高等学校弓道大会が埼玉開催となります。この大会は北海道、東北、関東の男女各代表校が2校ずつ集まって五人制、三人制の2種類の競技が実施される大会です。各連盟の連合会と高体連との共催で行われています。先日3月27日～29日に千葉県で行われた、第14回大会に専門部の視察団とともに、連盟から本橋民夫先生にも視察していただきました。

現在は県武道館のアリーナに特設弓道場を設営して実施する方向で、日程調整をしているところです。年度末に、柔道、空手の全国大会が予定されており、県武道館が難しい場合、他の施設等も検討しなければならない状況で、何かと厳しい状況ではあります。今後、連盟のご支援もいただきながら、準備を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

専門部引き続きの課題として、若手顧問の育成が第一に挙げられます。ここ数年教員の採用も少しずつ増え、20代の顧問も増えてきました。30代後半から40代の顧問の人数が極端に少ない中、50代のベテラン顧問の指導法や、部活動経営を若手顧問にしっかり伝えていくことは、10年後の専門部を考えた時、急務の課題であると言えます。

生徒数減少の中にあって、嬉しいことに弓道部員数は減らず、むしろ漸増傾向にあります。子どもたちの育成は、単に専門部の課題であるだけでなく、弓道界全体にとって大切な課題です。引き続き連盟の先生方としっかり連携して、高校弓士の育成に励みたいと思います。ご指導、ご支援の程お願いいたします。

〈平成27年度、28年度専門部役員〉

委員長 川越総合高校 山田 紀之

副委員長	川越高校	新津 雅之
副委員長	寄居城北高校	丸山 康弘
事務局長	川口北高校	島村 睦
高体連会計	鳩ヶ谷高校	友井 誠
弓連会計	川越南高校	井上 尚



4月13日大宮公園 向かって左から
山田 新津 丸山 島村 友井 井上

●新人大会 兼 県体

平成26年9月20日(土) 女子438名、21日(日) 男子415名、大宮公園弓道場

○女子団体／①寄居城北A(青木英里果、中野汐理、牧 祐帆、金子友紀)、②岩槻商業A(武政秋結実、井原さつき、水野 歩、高橋綾香)、③与野B(平井愛実、清水柚月、小林奈々、高畑美沙)○男子団体／①川越南B(小澤郁磨、松澤駿作、三村洸太、守屋俊希)、②西武文理A(高橋莉久、外口 純、奥富雄也、畑中優一)、③浦和学院A(服部雄太、柳井友貴、真野 優、瀬端慎一)○女子個人／①青木英里果(寄居城北)、②堀内理子(浦和学院)、③磯村実佑(東農大三)○男子個人／①島村 陵(埼玉栄)、②松本英悟(川越)、③渋谷柁平(川越)※男女団体各1、2位は東日本高校弓道大会に出場

●全国選抜大会県予選会

平成26年11月8日(土) 男子1,2次434名、9日(日) 女子1,2次440名、15(土) 男女3次、決勝

○男子団体／①大宮光陵C(黒須雄登、石鉢賢悟、斉藤誉幸、加藤 春)、②西武文理A(奥富雄也、畑中優一、三本 翔、高橋莉久)、③川越A(松本英悟、八木健太、渋谷柁平、井山直哉)、④大宮光陵A(佐藤尚樹、小町竜暉、柿沼修平、櫻井孝輔)○女子団体／①岩槻商業A(井原さつき、武政秋結実、水野 歩、高橋綾香)、②川越南A(毛利真子、丑久保ひかる、田島花梨、中村

栞)、③草加西 A (藤島るな、三浦 遙、山崎優里、松本菜緒)、④川越女子 C (吉谷 悠、片里麻理奈、若山優希、大熊菜月) ○男子個人／①三本 翔 (西武文理)、②関根 亮 (埼玉平成)、③石鉢賢悟 (大宮光陵)、④岩田 琳 (川越総合)

○女子個人／①水野 歩 (岩槻商業)、②若山優希 (川越女子)、③井原さつき (岩槻商業)、④吉谷 悠 (川越女子)

※男女団体各 1 位、男子個人 1,2 位、女子個人 2,4 位 (1,3 位は団体出場校のため) の選手は、全国高校弓道選抜大会に出場

●第 33 回全国高等学校弓道選抜大会

平成 27 年 1 月 10 日 (土) ～ 12 日 (月) 鹿児島アリーナ特設弓道場

○男子団体 予選通過 決勝トーナメント出場
大宮光陵 1 回戦敗退

●第 14 回東日本高等学校弓道大会

平成 27 年 3 月 27 日 (金) ～ 29 日 (日) 千葉県総合スポーツセンター体育館特設弓道場

○3 人制女子団体準優勝 岩槻商業 (高橋綾香、武政秋結実、水野 歩、井原さつき)



東日本大会 3 人制 決勝戦 手前 岩槻商業
高橋、武政、水野の各選手 奥 都立美原高校

松沢範士の弓道講座 (第4回)

研修・講習会で気づいた事項



1. 入・退場

動作おおむね可、礼の対象を見ない人正対しない人あり。入場から本座まで1呼吸で4歩 歩き方がスロー。
目は鼻頭を通して四メートル先 下向きの人目立つ。

2. 開き足

3動作が目立つ。左足のかぶせが浅いので右膝を引く形となっている。

3. 肌脱ぎ

籐頭が高い。動作中弓の動く人あり。

4. 矢番え

立てた弓の弦は鼻正面ずれる人あり。
矢番えの際弓動く、また、左肘の下がる人目立つ。

5. 胴造り

縦横十文字の関心が低い、したがって離れに体動く、縦線は最後までしっかりと確保する。
体重を足の裏に感じる・ひかがみを伸ばす・気を丹田に置く。

6. 大三

矢尺の半分が良い、引き過ぎと、矢先下がりに注意する。
確認の方法 カケの紐が顔の正面が可。

7. 手の内

握りが深く堅いので弓返り手開き見える。
また、上押し多いが中押しが望ましい。
卵中・傘の手の内の心得。

8. 息合い

一動作一呼吸、関心が低くリズムがでない。
特に引き分けから会までの作り方を工夫する。

9. 会

浅い人多し 深会の追及 手力の弓多し 身体一杯を使った詰めあいと伸び合いは良射の

絶対的条件。

会の六条件 (頬づけ・胸弦・的付け・矢尺・縦横十文字・詰と伸び)

10. 離れ

バネなし放している。射法訓の胸割り追及したい。

11. 残身

早仕舞いは味がない。離れの姿勢を崩さず気合を伸ばす。
時間的には会の半分程度と言われている。

12. 立ちの入れ替え

次立ちの大前は前立ち落ちの退りを確認して射位に進む。
落ちは後退の場合、後ろの隔壁に注意する。

13. 平常心とは

当てよう失敗しないようにと思うと焦りがでて、自分本来の射が表現できない、どうせ私の射は此の位と開き直って、自分の持っているものを表現すると案外容易に平常心を保って力が出るものである。 以上



正気を放つ毅然とした姿

